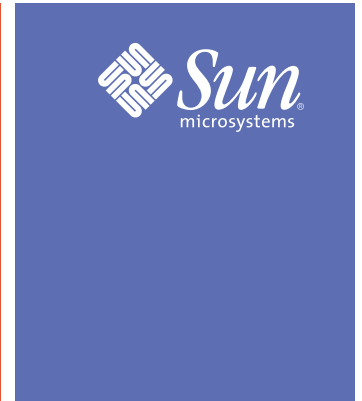


# Sun Java™ System Directory Proxy Server 5.2

オープンなテクノロジーにより高い可用性と柔軟性、  
高度なセキュリティを提供し、ミッション・クリティカルな要求に応える  
ディレクトリ・サービスを実現。



## Key feature highlights

フェイルオーバーおよびフェイルバック機能により、  
ディレクトリ・サービスの高可用性を実現

複数のディレクトリ・サーバ間で、負荷分散を実現  
エントリや属性値を隠したユーザ認証により、ディ  
レクトリ・サービスを保護し、セキュリティを強化

フィルタリング、スキーマ・マッピングおよび、必要  
項目を自動的に追隨して参照する機能により、ク  
ライアント・アプリケーション間の相互接続が容  
易で高いユーザビリティを実現

ファイアウォールと同等のセキュリティ機構により、  
ディレクトリ・サービスへのDoS攻撃( Denial of  
Service attack )、そして認証を受けていないユー  
ザ、権限のないユーザからのアクセスを防御

クライアントに代わりLDAP情報を自動的に参照  
し、効率的にルーティング

オープン・スタンダードなテクノロジーをベースに、  
クロス・プラットフォームでの広範囲な相互運用  
性を実現

エンタープライズ・システムにおけるリソース・プランニングやバリュー・チェーン・マネジメント、セキュリティ  
とファイアウォール、さらにはリソース配分など、今やディレクトリ配下で稼働しているアプリケーションは、数  
多くの重要な処理を担っています。そして、それぞれのディレクトリ・サービスはユーザ・プロファイル、セキュ  
リティ情報、組織の運用ポリシーなどの情報をユーザやアプリケーション、Webサービスに提供する役割を  
担っています。

Sun Java™ System Directory Proxy Server 5.2( 旧Sun™ ONE Directory Proxy Server 5.2 )は頑強な  
LDAP( Lightweight Directory Access Protocol )プロキシとして機能し、フェイルオーバーや負荷分散、そ  
してミッション・クリティカルなディレクトリの実装に必要なLDAPセキュリティを提供します。

Java System Directory Proxy ServerソフトウェアはSun Java System( 旧Sun ONE )アーキテクチャの  
1コンポーネントとして、ファイアウォールと同様のセキュリティをディレクトリ資産に提供し、ディレクトリ・サー  
バへの大規模攻撃や、認証されていない、もしくは権限を持たないユーザの不正なアクセスから守ります。

## Java System Directory Proxy Serverの利点

### ディレクトリ・サービス・インフラストラクチャの保護

Java System Directory Proxy Serverは、ディレクト  
リ・サービスのセキュリティや可用性の向上を支援し  
ます。Java System Directory Proxy Serverソフト  
ウェアは、負荷分散処理によりプライマリ・サーバの  
ディレクトリ環境を保護し、LDAPフェイルオーバー機  
能でサービスの可用性を実現します。ネットワークや  
ハードウェアの障害でディレクトリ・サーバが利用でき  
なくなった場合には、Java System Directory Proxy  
Serverがユーザに意識させることなく、そのリクエス  
トを代替サーバへと転送します。

### 大規模ディレクトリ・サービスを柔軟に管理

スキーマの変更を必要とする事態がまれなケースで  
あったとしても、すべてのディレクトリ対応アプリケー  
ションに同時に手を加える必要が生じた場合、それ  
らアプリケーション同士の強固な連鎖がディレクトリ  
の管理をとて難しいものにしてしまいがちです。し  
かし、Java System Directory Proxy Serverは、より

簡単に大規模ディレクトリ・サービスを管理できる柔  
軟性を提供。サービス、サーバ、そしてデータやスキ  
ーマを抽象化し、扱いやすくすることで、最も重要なIT  
基盤のひとつであるディレクトリ・サービスに対し、か  
つてない柔軟性を与えるのです。また個々のバック  
エンドにディレクトリ・サーバを持たせ、メンテナンス  
などのシステムダウン時に、可用性やディレクトリ・サー  
ビスに対して影響が及ばないようにすることも可能  
です。

### 1ヶ所のアクセスポイントから

#### 複数のディレクトリへアクセス可能

Java System Directory Proxy ServerはLDAPの参  
照によるアクセスの解決をサポートしており、異なる  
ツリー上にあるディレクトリ・サーバもサービス・クラ  
イアントとして利用できます。スキーマ転送との組み  
合わせで、ユーザは実際のディレクトリ構造を意識  
せず、単純に各ディレクトリ・サービスに対して要求  
を出し、その結果を受け取ることが可能になります。

## Sun Java System Directory Proxy Server 5.2

### Java System Directory Proxy Serverの特徴

#### 高可用性ディレクトリ・サービス

Java System Directory Proxy Serverは、は負荷分散とフェイルオーバーにより高い可用性を持つディレクトリ・サービスを提供します。負荷分散は、単一のサーバが処理できないレベルの負荷を負わないよう、ユーザからのリクエストを複数のディレクトリ・サーバへ分散して展開します。

フェイルオーバー処理は、ディレクトリ・サーバがオフラインになった場合でもディレクトリ・サービスを継続できるようにします。例えば、メンテナンスやハードウェアのアップグレードなど、計画的にサービスを停止した際に特定のディレクトリ・サーバが利用できなくなったような場合でも、Java System Directory Proxy Serverはディレクトリに対する要求をユーザに意識させることなく利用可能な他のサーバへ転送します。また、本来のディレクトリ・サーバが再度使用可能状態になった場合、Java System Directory Proxy Serverは誰にも気づかれることなく、転送をもとの状態へと復帰させます。

#### 攻撃からの防御

Java System Directory Proxy Serverはファイアウォールと同等のセキュリティ機能により、悪意の第三者からディレクトリ・サーバへの攻撃によって生じるリスクを最小限にとどめます。フロント・エンド・サーバとしてDoS攻撃を防ぎ、また、ポート・スキャンやデータ・トローリングなどの攻撃からプライマリのディレクトリ環境を隠します。さらに、Java System Directory Proxy Serverはあらかじめ設定されたIPアドレス、グループ・メンバーシップなどの情報に基づき、アクセスの可否をコントロールできます。未承認ユーザのアクセスやファイルの変更処理、そして通常のネットワーク環境への接続ではありえないリクエストなどはフィルタを利用し遮断することが

可能です。フィルタはクライアントからのリクエストを返す前に適用され、ディレクトリ・アーキテクチャツリー構造、そして特定の属性値を隠します。

#### LDAPスキーマ・トランスレーション

多くのクライアントにおいては、ソースコードが入手できなかったり、ソースコードへの変更が困難だったり、ベンダーがスキーマの設定変更をサポートしていない等の理由により、他の異なるスキーマへの対応を容易に行うことができません。Java System Directory Proxy Serverはディレクトリ・サーバで使われているスキーマを、異なるクライアント・ソフトウェア固有のフォーマットと互換性のあるスキーマへと返還するブリッジ機能を装備しています。これにより、1つのスキーマにおけるディレクトリ情報を、他へとマッピングすることが可能になり、ディレクトリとクライアントに互換性が生まれます。

#### ログファイル・ローテーション

Java System Directory Proxy Server 5.2では新しい機能として、ログや監査証跡をどのようにローテーションするかを設定できるようになりました。最低限必要な設定はログや監査証跡の最大容量の設定のみです。設定したサイズにまでファイル容量が達すると、新しいファイルが作成され、そちらへ新しく書き込みが開始されます。さらにオプション機能として、蓄積するファイル数を設定して、その数を超えた場合、履歴の古いファイル順に削除することが可能です。

### 業界標準のサポート

- LDAPバージョン2、LDAPバージョン3のオペレーションをサポート
- X.509デジタル証明書
- LDAPバージョン2、LDAPバージョン3のRFCのインプリメンテーション: RFC 1274、1558、1777、1778、1959、2195、2222、2247、2251、2252、2253、2254、2255、2256、2279、2307、2377および2830
- LDAP検索フィルタのサポート: presence, equality, inequality, substring, approximate( "sounds like" ), Boolean operators and( & ) or( | ), and not( ! ) などが利用可能
- LDAPバージョン3のインテリジェントreferralにより、問合せに対する他ディレクトリの参照をサポート

### オペレーティングシステムとプラットフォーム

- Solaris™ 9オペレーティングシステム ( SPARC®版 ) ( X 32bit対応 SPARC )
- Solaris8オペレーティングシステム ( SPARC版 ) ( X 32bit対応 SPARC )
- Solaris 9オペレーティングシステム ( Pentium IIもしくはIA-32以降の、x86版 )
- Microsoft Windows 2000 Server およびAdvanced Server SP3 ( Pentium IIもしくはIA-32以降のプロセッサ版 )
- Red Hat Linux 7.2 ( Pentium IIもしくはIA-32以降のプロセッサ版 )

#### 詳細

Sun Java™ System Directory Proxy Server 5.2の詳細については、[sun.co.jp/software/](http://sun.co.jp/software/)をご覧ください。

## サン・マイクロシステムズ株式会社

本社	〒158-8633	東京都世田谷区用賀4-10-1	SBSタワー	電話( 03 )6717 5000( 代 )
山王オフィス	〒100-6160	東京都千代田区永田町2-11-1	山王パークタワー12F	電話( 03 )4232 2400( 代 )
中部支社	〒460-0002	名古屋市中区丸の内2 14 4	エグゼルの内507	電話( 052 )203 1233( 代 )
大阪支社	〒541-0052	大阪市中央区安土町1-8-15	野村不動産大阪ビル5F	電話( 06 )6265 5700( 代 )
九州支社	〒814-0001	福岡市早良区百道浜2-1-22	福岡SRPセンタービル3F 308	電話( 092 )834 0100( 代 )
つくば営業所	〒305-0032	茨城県つくば市竹園1-6-1	つくば三井ビルディング11F	電話( 0298 )61 2210( 代 )
豊田営業所	〒471-0833	愛知県豊田市山之手5-73-1	山之手ビル7F	電話( 0565 )25 5700( 代 )
ホームページ	<a href="http://sun.co.jp/">http://sun.co.jp/</a>			

© 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun, Sun Microsystems, サンのロゴマーク, Java Coffee Cupのロゴマーク, Java, Solarisは、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。すべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC商標がついた製品は、米国Sun Microsystems, Inc.が開発したアーキテクチャに基づくものです。

資料の内容は、お断りなしに変更することもありますのでご了承ください。

